

／イクジイ世代にお伝えしたい／

周産期のこころのこと



信州大学医学部周産期のこころの医学講座の特任講師
村上寛先生による連載コーナーです。
妊娠期から産後の女性とそご家族のメンタルヘルスに関する
村上先生のコラムをご紹介します。

Theme

薬剤師さんに聞く！ 妊娠と薬の関係。 【後編】

妊娠婦さんに正しく薬を使っていただくために。前号に続き、「周産期のこころの外來」をサポートしてくれている薬剤師・小澤秀介さんに、「妊娠と薬」について解説いただきます。

【妊娠中の市販の薬の使用】

ドラッグストアなどで売られている風邪薬には、「熱を下げる」「咳を止める」「鼻水を抑える」など、いろいろな効果が書かれているものがあります。ただし、それらの薬の中には、赤ちゃんに影響を与える可能性のある成分が含まれているものもあります。例えば、熱を下げたり痛みをとったりする薬では、アセトアミノフェンという成分があり、妊娠中に比較的安全とされている成分です。一方、アスピリン、イブプロフェン、ロキソプロフェンといった成分は、妊娠後期には使用しない方が良く考えられています。

【妊娠中に薬を使用する前に】

妊娠中に薬を使う場合には、これまでに書いたようなことを考えながら薬を選んでいくことになります。専門的な知識が必要になりますので、まずは医師や薬剤師に相談してください。また、病院を受診する際は、必ず妊娠中であることを伝えるようにしてください。今、妊娠のどの時期なのか、赤ちゃんに影響が出にくい薬はあるか、などを考えて、安全に使用できる薬が処方されます。

【持病で治療をされている方へ】

持病のある方で妊娠を希望される場合は、妊娠する前に治療方針（どの薬を使うか）を主治医と相談していくことが重要です。妊娠が分かったからといって急に薬を変えたり中止したりすると、お母さんの病状が悪化するだけでなく、おなかの赤ちゃんの発育にも悪影響を及ぼす可能性があります。主治医と相談した結果、お母さんの病気の状況によって、薬の内容や量を調節しながら飲み続けてもらう場合もあります。妊娠中に薬を飲むのは不安な方もいると思いますが、治療に必要な薬を適切に服用し、お母さんの体調を良い状態に保つことは、おなかの赤ちゃんの健やかな発育にも繋がります。

【最後に】

妊娠中の薬について気になることがあれば、まずは、産婦人科医師、かかりつけの医師や薬剤師に相談してみましょう。さらに詳しく知りたい場合には、妊娠と薬に関する専門機関「妊娠と薬情報センター」に相談して疑問や不安を解消することもできます。妊娠と薬情報センターは、妊娠中の薬と赤ちゃんへの影響についての情報が集められており、電話や各都道府県にある「妊娠と薬外來」で相談することができます。長野県では、松本市にあります信州大学医学部附属病院が「妊娠と薬情報センター拠点病院」として指定されており、妊娠と薬に関する専門的な相談が可能です。



むらかみ ひろし
村上 寛先生
1985年生まれ、
東京都出身。
信州大学医学部周産期の
こころの医学講座医師。
三児の父。「周産期、全力
を尽くします！」



村上寛先生の公式X (旧 Twitter)
<https://x.com/murakamishinshu>



村上寛の育児日記

先日家族全員で松本山雅 FCのサポーターの友人の結婚式に参加しました。松本山雅 FCのマスコットであるガンズくんが登場して、長男は大喜びでした。

編集室では「周産期のこころのこと」に関わる質問を募集します。村上先生にお聞きしたいこと／掲載用住所(市町村名)とペンネームを編集室までお寄せください。

妊娠と薬に関する相談機関

国立成育医療
研究センター
妊娠と薬情報センター



信州大学医学部
附属病院
妊娠と薬外來

